

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



次の世代を育む人たちへ

「花を育てられない者に、子どもは育てられないよ」
これは、新卒の頃、大先輩教師から頂いた言葉です。
その頃、部屋の観葉植物をよく枯らしていた私は、「それは、関係ないのでは？」とっていました。

附属小に勤務して1年目のこと。私は、学年の栽培活動（生活科）の推進役を任せられました。花や野菜を植え毎日見守りました。私が気にかけると、子どもたちも熱心に世話をするようになり、植物は成長しました。私が忙しくて育てる意識が薄れると子どもたちも遠ざかり植物も弱っていきました。植物と子どもたちは私の合わせ鏡でした。私自身が育てる意識を切らさないようにすることが、植物にも、それに関わる子どもたちの成長にも、極めて大事であることに気づきました。

命を慈しみ育むまなざしを向け続けること。必要な時にはしっかり手をかけること。芽が出た、本葉が増えた、つぼみがついた、花が咲いたとい



って、生長の節目毎に喜ぶのは、「子育て」と全く同じです。物言わぬ植物は、「水がほしい!」「虫に食われて痛い!」とは言いません。こちらが目を離さず見守り、異変にはいち早く察知して適切に対処するしかないのです。肥料や日光を与えすぎても足りなくても植物を傷めることになります。敢えて寒さを経験させなければ発芽しない植物もあります。人も同じです。自分の気持ちや異変を、うまく訴える事ができない幼児は、なおさらです。

今、ようやくこの言葉を、子どもを育てる次の世代の若い方々（先生方、お父さんやお母さん方）に伝えたいと思います。ぜひ種から花や野菜を苦勞して育ててみてください。そして、そっくり同じ心持ちで、子どもたちを育てていかれることをおすすめします。

（実は、私が桃色タンポポの種をお分けするのも、このような理由からなのです。）



何事も、理由がわかれば「しよう」「したほうが良い」「しなくてはいけない」と思うようになり行動化しやすいものではない。理由も、視覚に訴える方法で教える方が幼児には見えない。年長児にも対象に「今年も学校薬剤師の伊藤先生に来て頂き、子どもたちも洗剤の手洗いを指導していただきました！」

どうして手を洗うのかな？

カフェ「ふくろうと豆の木」へどうぞ

くどうなおこさんの「のはらうた」という詩集が大好きです。中でも「おいで」という詩は、短いけれど、じんわりと、とても心に染みる詩です。これを書いた詩人は「ふくろうげんぞう」さんです。（イラストは、彼とその詩のイメージを私が描いたもの）ぜひ、手に取ってみてください。

さて、今年度、1学期末の園長講話は行いません。その代わり、子どものこと、ご自分のこと、話題は何でもOK、「おしゃべりしてみたい」という方がいれば、個別にお話できる時間を設けたいと思います。

7月8、9、17、18日は、園長室は「ふくろうと豆の木」という名のカフェになります。お気軽においでください。（要予約・園長まで）

